

令和元年度 第1回下野市地域自立支援協議会 議事録

日 時 令和元年 6月14日(金) 午後1時30分から4時30分  
場 所 下野市庁舎303会議室  
出席者 委 員：別紙名簿のとおり、代理者1名(小島委員⇒渡邊氏)  
欠席者1名(本田委員)  
事務局：健康福祉部手塚部長、社会福祉課所課長、  
障がい福祉グループ 金田課長補佐、青柳主査  
障がい児者相談支援センター 田崎、舘野、毛呂、鈴木、大関  
地域活動支援センターゆうがお 山崎  
大嶋コーディネーター  
傍聴人 小島恒夫 様  
審議内容 (原則として発言委員名を明記し、発言の要点のみを記載している。)

第1部 全体会

1. 開 会

社会福祉課 所課長 (欠席報告 本田委員)

2. 委嘱状交付

広瀬市長より委員代表して生澤委員に交付

3. 市長あいさつ

4. 自己紹介

委員および事務局の自己紹介

5. 会長及び副会長の互選

会 長：はくつる会 鱒淵委員

副会長：むつみ愛泉こども園 安田委員

6. 会長あいさつ

7. 議 事

会議録署名人の選出は名簿番号順での選出とし、生澤委員・加藤委員を指名し了承。

(1) 会議運営に関する確認事項について

事務局より、本協議会について、資料1のとおり運営することを説明し了承。

(2) 下野市地域自立支援協議会の構成と役割について

(事務局)

資料2に基づき説明。協議会は、単一の機関や個人で取り組むのが難しい課題を委員の経験を活かして協議し、地域課題を解決する場である。活発な意見を出し合ってより良い下野市にしていけるよう取り組んでいきたいと考えている。

(会長)

ゆうゆうすまいるや下野市内施設連絡会、こども通園センターけやきや基幹型相談支援センターの立ち上げ等、協議会で検討してきたものであり、協議会での役割は重要なものである。地域に隠された問題を拾い上げ解決していくために委員一人ひとりの力を借りたいと考えている。

(3) 平成30年度事業報告及び令和元年度協議会事業計画(案)について

(事務局)

資料3に基づき説明。平成30年度事業報告について、市内施設販売連絡会においては、市外においても積極的な展開を図っている。また、医療的ケア児等支援協議WGは、昨年度末に開催。医療的ケアが必要な児童に対し、市の課題も含め検討している。今年度も2回開催予定。

令和元年度協議会事業計画案について、日程の確認。精神障がい者地域支援WGについての説明。

(4) 平成30年度市障がい者優先調達実績及び令和元年度市障がい者優先調達推進方針(案)について

(事務局)

資料4に基づき説明。平成30年度実績額について、1,695,105円となり、目標額1,600,000円を達することができた。内訳として、保育園や児童館のパンの依頼や会議のお茶代、単発なもので文化財課の依頼品ビーズコースターがあり達成することができた。昨年度の実績に基づき、今年度の目標を検討。保育園の民営化に伴い定期的な金額が見込めないため1,700,000円としている。協議会において協議の上で設定するとなっているが、昨年度から協議会に関連している市内施設販売連絡会において協議し設定という形で運用している。

(5) 平成30年度障がい者虐待防止対策事業実績報告

(事務局)

昨年度報告した案件について、その後の経過報告。対象者は、他市の施設(2年間の

訓練施設)に移り対人関係の課題に取り組むと同時に次の生活の拠点を探している。月1回本人と面談し引き続きサポートしている。

(6) 平成30年度下野市障がい者相談支援センター業務実績報告及び新たな下野市障がい児者支援センターについて

(事務局)

資料5に基づき説明。前年度までセンターとして取り組む中で、個別ケース対応とまちづくり対応を掛け持ちで取り組むことが難しく、基幹型相談支援センター必要性を感じていた。また、協議会の中でも地域課題として、基幹型相談支援センターの早期設置が掲げられており、設置WGの中で協議を進め設立に至っている。

住民の相談、障がいを持っている方への相談役として地区ごとに担当する相談支援チームがあり、相談を受ける中で把握する地域課題等に対し、その解決策について基幹相談チームが取り組み、協議会とも連携を図りながら対応していく。

(会長)

基幹型になったことで、実感されることはあるか。

(臼井委員)

こばと園では児と就学前の方を対象としているため、その後の支援をセンターの地区担当に繋げている。

(粥見委員)

以前は不在なことが多かったが、待機当番制ができたため期待がもてる。

(7) 平成30年度下野市地域活動支援センターゆうがお実績報告について

(山崎)

資料6に基づき説明。昨年度の目標として、利用者の方の安心した居場所の提供、実施したいことへの実現できる場所として運営している。居場所としての利用は定着してきている。実現できる場所としての利用は、やりたいことがあっても不安があり外での活動が難しい、また、手立てが考え付かない、職員に頼ってしまうことがあり施設内に留まる等の傾向もある。通年を通して普及啓発活動や施設内だけでないプログラムを提供することで、徐々に地域に出る安心感を持ってもらっている。また、基幹相談支援センターができたため、地活に求められる役割を確認していき、精神保健福祉に貢献できるようにしていきたい。

(前野委員)

精神障がいの方への対応は難しさを感じている。妄想などがあることでその妄想自体に希望を感じていることもわかってほしい。一方で同じ仲間と関わることは大切だとも感じている。在宅で生活している当事者を繋げていけるようアプローチしてほしい。

(8) 第5期下野市障がい者福祉計画（しもつけハートフルプラン）の平成30年度評価  
（事務局）

資料7に基づき説明。第5期下野市障がい者福祉計画（しもつけハートフルプラン）40ページの計画をもとに各課からの取組状況を中間評価している。障害福祉サービスについては、現在取りまとめ期間中のため空欄となる。

（朝川委員）

超高齢社会になり、障がい福祉部門との連携は密になってくる。高齢分野の従事者も障がい福祉についての理解を広めていきたい。

(9) ヘルプマーク、カードについて

（事務局）

資料8に基づき説明。ヘルプマーク・カードの普及啓発について、取り組むに当たり委員の方にもご協力をお願いしていきたい。

（会長）

ヘルプマークを付けている方はバス等で見かけるようになったが、ヘルプカードを活用している場面には遭遇しない。カードを活用して何かあったときには対応できるよう普及啓発をお願いしたい。

(10) 令和元年度しもつけふくしフェスタの参加について

（事務局）

資料9に基づいて説明。今年度、ふくしフェスタは11月30日（土）に予定している。内容については、第3回下野市地域自立支援協議会で検討していくため、アイデア等を含めご協力をお願いしたい。

（会長）

しもつけふくしフェスタは下野市地域自立支援協議会発足当初から参加し、当協議会の周知と障がいへの理解のPRの場となっている。今年度も協力し合い盛り上げていきたい。

(11) ゆうゆうすまいるの活動について

（事務局）

資料10に基づき説明。今年度から視野が広がり、5月は『はくつる会』の田植えまつりに参加させてもらった。今後も参加者の意見も聞きつつ地域の活動等にも参加していければと考えている。

（会長）

下野市地域自立支援協議会から生まれたものであるため、委員の方にも機会があれば参加していただきより充実されるものになるよう意見していただきたい。

第2部 分科会 午後3時15分から午後3時55分

( 就労部会 ・ 相談支援部会 ・ こども部会 )

各部会に分かれての作業。部会は方向性や指針について設定していくこと。平成30年度の各部会の目標と評価シートを見ながら検討、協議。

全体会 午後3時55分から午後4時05分 各部会からの取組の発表。

(相談支援部会)

しもつけハートフルプラン35ページより

「基幹相談支援センターの在り方や方向性の検討」について、今年度センターが立ち上がったため解決となる。

「福祉サービスにおける地域課題と対応策の検討」について、すでに地域課題は出されているが、課題の整理や優先順位付け等を重点的に取り組んでいく予定。地域課題については基幹である障がい児者相談支援センターで集約しそれをもとに検討していく。

(こども部会)

しもつけハートフルプラン35ページより

「幼稚園、保育所、学童保育、小学校などの支援員を対象に、軽度の発達障がい児が増えている現状より、その子どもの支援の仕方に関する勉強会の検討」について、例年に引き続き勉強会を実施していきたい。

「こぼと園のスタッフによる各幼稚園・保育所への巡回相談や、国分寺特別支援学校による地域巡回相談等の具体的な支援方法を指導してもらう機会の検討」について、市内の障がい児通園施設の事業所連絡会を今年度立ち上げて年に1, 2回、現場の人たちの困り感や学ぶ機会の共有する場を作りたい。

「障がい児と健常者の小さい頃からの交流の検討」について、小学校低学年から障がい児に対して周りの障がいの有無に関係なく関りが持てるよう出前講座等を検討していく。

しもつけふくしフェスタについて、こども部会として何を伝えていくかを継続的に検討していく。

(就労部会)

しもつけハートフルプラン35ページより

「12月の障がい者週間で広報誌への障がい者雇用の実態を紹介する取組みの継続」について、今年度も継続していく。就労継続支援A型・B型事業所紹介を盛り込む就労に繋がるような周知を図る予定。

「商工会や市内工業団地組合と連携した情報交換の実施」「福祉的就労の場である市内就労支援施設の現状把握。障がい者雇用に関し、商工会や工業団地組合等と連携した

情報交換等の実施」について、市内の工業団地から求人募集の依頼があるが交通機関が不便であり就労に繋がらないことが多い、また、市内での就職を希望しているがグループホームがなく就労を諦めている現状があり、地域課題にも取り組んでいく予定。

昨年度は労働局とのコラボ企画があったためセミナーを開催。今年度も予算の中で講演会を実施していくためにWGを立ち上げ内容等を検討していく予定。

8. その他  
特に無し

9. 閉 会

議事録署名人 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_